

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】令和6年4月3日(2024.4.3)

【国際公開番号】WO2022/107722

【出願番号】特願2022-563742(P2022-563742)

【国際特許分類】

A 6 1 B 3/028(2006.01)

【FI】

A 6 1 B 3/028

10

【手続補正書】

【提出日】令和6年3月22日(2024.3.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

20

被検眼に呈示される視標光束の光学特性を変化させる矯正光学系と、被検眼に視標を呈示する視標呈示部を有し、被検眼の光学特性を自覚的に測定するために使用される自覚式検眼装置と、

前記自覚式検眼装置に接続される第1情報処理装置と、

を備えた自覚式検眼システムの前記第1情報処理装置によって実行される検眼制御プログラムであって、

被検者によって入力された回答に基づいて検眼を自動的に進行させるセルフ検眼プログラムを含み、

前記セルフ検眼プログラムが前記第1情報処理装置の前記制御部によって実行されることと、

30

少なくとも、自動的に進行されるセルフ検眼の進行手順に基づいて、複数の検査項目を実行するために前記矯正光学系と前記視標呈示部を制御するセルフ検眼進行ステップと、呈示された視標を視認した被検者によって入力される回答を取得する回答取得ステップと、

前記セルフ検眼の進行に問題が生じた場合に、前記セルフ検眼の進行を補助するための補助動作を実行するセルフ検眼補助ステップと、

が前記第1情報処理装置によって実行される検眼制御プログラムであって、

前記セルフ検眼補助ステップは、

補助者を呼び出す呼出動作を実行するための指示である呼出実行指示の入力を被検者から受け付ける受付ステップと、

40

前記受付ステップにおいて受け付けられた前記呼出実行指示に基づいて呼出動作を実行する呼出実行ステップと、

前記受付ステップにおいて受け付けられた前記呼出実行指示に基づいて、前記呼出実行指示が入力された時点での検査項目にて前記補助動作を開始できるように前記補助動作を開始する際の検査タイミングを設定する検査タイミング設定ステップと、

を含むことを特徴とする検眼制御プログラム。

【請求項2】

請求項1に記載の検眼制御プログラムであって、

前記セルフ検眼補助ステップは、前記呼出実行指示が入力された時点で前記セルフ検眼の進行を一旦停止させることで、前記呼出実行指示が入力された時点での検査項目に前記

50

検査タイミングを設定することを特徴とする検眼制御プログラム。

【請求項 3】

請求項 1 に記載の検眼制御プログラムであって、

前記セルフ検眼補助ステップは、前記呼出実行指示が入力された時点での検査項目を記憶部に記憶させておき、前記記憶部に記憶された前記検査項目に基づいて、前記呼出実行指示が入力された時点での検査項目に前記検査タイミングを設定可能であることを特徴とする検眼制御プログラム。

【請求項 4】

請求項 1 ～ 3 に記載の検眼制御プログラムであって、

回答取得ステップは、前記呼出実行指示が入力された場合、前記呼出実行指示が入力された時点よりも後に入力される回答の入力を制限することを特徴とする検眼制御プログラム。

10

【請求項 5】

請求項 1 ～ 4 に記載の検眼制御プログラムであって、

前記セルフ検眼補助ステップは、

前記呼出実行指示が入力されるまでは、補助者である検者が前記自覚式検眼装置を操作するための検者用コントローラからの操作入力の少なくとも一部を制限し、

前記呼出実行指示が入力された場合、前記検者用コントローラからの前記操作入力の制限を解除することを特徴とする検眼制御プログラム。

【請求項 6】

請求項 1 ～ 5 に記載の検眼制御プログラムであって、

前記セルフ検眼補助ステップは、

前記呼出実行指示が入力された時点からの経過時間を出力する出力ステップを含むことを特徴とする検眼制御プログラム。

20

【請求項 7】

被検眼に呈示される視標光束の光学特性を変化させる矯正光学系と、被検眼に視標を呈示する視標呈示部を有し、被検眼の光学特性を自覚的に測定するために使用される自覚式検眼装置と、

前記自覚式検眼装置に接続される第 1 情報処理装置と、

を備えた自覚式検眼システムの前記第 1 情報処理装置によって実行される検眼制御プログラムであって、

30

被検者によって入力された回答に基づいて検眼を自動的に進行させるセルフ検眼プログラムを含み、

前記セルフ検眼プログラムが前記第 1 情報処理装置の前記制御部によって実行されること

で、

少なくとも、自動的に進行されるセルフ検眼の進行手順に基づいて、複数の検査項目を実行するために前記矯正光学系と前記視標呈示部を制御するセルフ検眼進行ステップと、

呈示された視標を視認した被検者によって入力される回答を取得する回答取得ステップと

、

前記セルフ検眼の進行に問題が生じた場合に、前記セルフ検眼の進行を補助するための補

40

助動作を実行するセルフ検眼補助ステップと、

が前記第 1 情報処理装置によって実行される検眼制御プログラムであって、

前記セルフ検眼補助ステップは、

前記補助動作の実行指示の入力を受け付ける受付ステップを含み、

前記回答取得ステップは、前記実行指示が入力された場合、前記実行指示が入力された時点よりも後に入力される回答の入力を制限することを特徴とする検眼制御プログラム。

【請求項 8】

被検眼に呈示される視標光束の光学特性を変化させる矯正光学系と、被検眼に視標を呈示する視標呈示部を有し、被検眼の光学特性を自覚的に測定するために使用される自覚式検眼装置と、

50

前記自覚式検眼装置に接続される第1情報処理装置と、
を備えた自覚式検眼システムの前記第1情報処理装置によって実行される検眼制御プログラムであって、
被検者によって入力された回答に基づいて検眼を自動的に進行させるセルフ検眼プログラムを含み、
前記セルフ検眼プログラムが前記第1情報処理装置の前記制御部によって実行されることで、
少なくとも、自動的に進行されるセルフ検眼の進行手順に基づいて、複数の検査項目を実行するために前記矯正光学系と前記視標呈示部を制御するセルフ検眼進行ステップと、
呈示された視標を視認した被検者によって入力される回答を取得する回答取得ステップと、
前記セルフ検眼の進行に問題が生じた場合に、前記セルフ検眼の進行を補助するための補助動作を実行するセルフ検眼補助ステップと、
が前記第1情報処理装置によって実行される検眼制御プログラムであって、
前記セルフ検眼補助ステップは、
前記補助動作の実行指示の入力を受け付ける受付ステップを含み、
前記実行指示が入力されるまでは、補助者である検者が前記自覚式検眼装置を、操作するための検者用コントローラからの操作入力の少なくとも一部を制限し、
前記実行指示が入力された場合、前記検者用コントローラからの前記操作入力の制限を解除することを特徴とする検眼制御プログラム。

10

20

【請求項9】

被検眼に呈示される視標光束の光学特性を変化させる矯正光学系と、被検眼に視標を呈示する視標呈示部を有し、被検眼の光学特性を自覚的に測定するために使用される自覚式検眼装置と、
前記自覚式検眼装置に接続される第1情報処理装置と、
を備えた自覚式検眼システムであって、
前記第1情報処理装置は、
被検者によって入力された回答に基づいて検眼を自動的に進行させるセルフ検眼プログラムを実行可能であり、
前記セルフ検眼プログラムは、
少なくとも、自動的に進行されるセルフ検眼の進行手順に基づいて、複数の検査項目を実行するために前記矯正光学系と前記視標呈示部を制御するセルフ検眼進行ステップと、
呈示された視標を視認した被検者によって入力される回答を取得する回答取得ステップと、
前記セルフ検眼の進行に問題が生じた場合に、前記セルフ検眼の進行を補助するための補助動作を実行するセルフ検眼補助ステップであって、
補助者を呼び出す呼出動作を実行するための指示である呼出実行指示の入力を被検者から受け付ける受付ステップと、
前記受付ステップにおいて受け付けられた前記呼出実行指示に基づいて呼出動作を実行する呼出実行ステップと、
前記受付ステップにおいて受け付けられた前記呼出実行指示に基づいて、前記呼出実行指示が入力された時点での検査項目にて前記補助動作を開始できるように前記補助動作を開始する際の検査タイミングを設定する検査タイミング設定ステップと、を含むセルフ検眼補助ステップと、を含むことを特徴とする自覚式検眼システム。

30

40

50